

高等部だより

だいち

限りなく広がる大地に
根をはって・・・
ワン

2018.3.15(木) 第13号
福島県立会津支援学校高等部
TEL 0242-32-2242

文責 高等部



46名の新たな第一歩！

～卒業証書授与式から～



卒業生式歌「友・旅立ちの時」



答辞

3月5日、46名の生徒が高等部を卒業し、新たな世界へと第一歩を踏み出しました。式場には、朝早くから保護者の皆様においでいただき、緊張感の中にも華やかさが感じられました。式は、物音一つしない緊張感につつまれ厳かそのものでした。証書を受け取る生徒の表情は、それぞれ凛としてきびきびしていました。式中の所作や式歌なども堂々としていました。生徒一人一人の個性や特徴を活かした普段の学習成果が十分発揮できたのではないのでしょうか。すばらしい卒業証書授与式でした。

4月からは社会人として、新しい生活をスタートさせます（下記に進路状況を載せましたのでご参考に）。学校生活で学んだことを生かし、自分の強みに誇りを持って、困難なことも乗り越え、未来へ向かって充実した社会生活を送れるよう、自分の力を基に周りの力も大いに活かして、新たな自分を見つけてほしいと思います。教職員全員が応援しています！

在校生は、生徒会長の本田拓海君が送辞で話したように、先輩方の後ろ姿から感じたことをしっかりと自分たちで捉え直し、目標を明確にして先輩へ追いつき追い越せと、勉強や運動、友への優しさをもってさらに自分を、「ぴっかぴか」に磨いていきましょう。後輩諸君、「君たちならできる！」。



送辞



堂々とした卒業生の入場



式歌「旅立ちの日に」



卒業証書授与！！



卒業担任の見つめる姿



多くのご来賓の方々



お祝いことば・PTA会長



後輩達の頼もしい姿



退場：新たな道へ！拍手で

平成30年度入学者選抜合格発表

〈新入生オリエンテーション 3/27 始業式・入学式4/9〉



受験番号を確認する生徒たち

3月14日（水）に、本校生徒昇降口にて、平成30年度高等部入学者選抜の合格者が発表されました。合格された生徒の皆さん本当におめでとうございます。合格者の内訳は、本校中学部から4名（男子2名、女子2名）外部の中学校からは18名（男子11名、女子7名）、合計22名です。今後後期受験者の出願受付がありますが、現在のところ、来年度の高等部生徒数は、全員で88名程度になる予定です。生徒数は今年度より若干少なくなるかもしれませんが、意気込みと熱い心は負けたいと思います。

生徒一人一人が自分の良さを生かし、様々なことに挑戦して一層輝けるよう頑張してほしいものです。私たち教員も、新しい教育目標の実現に向けて、自立し社会参加する生徒に育てていきたいと考えます。

修了式！

3月16日（金）に平成29年度高等部修了式を行います。

1年生は、31名が全課程を修了し、1組の小池響君が代表して修了証書をいただきます。2年生は28名が全課程を修了し、6組の橋本詩穂君が代表して修了証書をいただきます。修了に際し2年生の松本康成君が1年間の思い出を発表する予定です。

4月から一つ進級し、2年生・3年生となります。失敗を恐れず、いろいろなことにチャレンジして一つ一つ乗り越えていってほしいと思います。

『つまづくのは、歩こうと一歩前に足を出したからです』。何もしない人は、つまずきません。さあ生徒諸君！つまづくことを恐れないで、一歩前へ踏みだそう！

人生は選択の連続である！ ～シェイクスピアのことば～

今年度の進路状況です。生活介護7名、就労継続支援A型事業0名、就労継続支援B型事業17名、就労移行支援事業1名、一般就労19名、進学1名、その他1名 合計46名です。

未来の皆さん幸多かれ！

今年度は、「自分で選択し自分で決める進路」をテーマに進路指導に取り組んでまいりました。実習先を変更して自分の希望する職種で実習を行ったものの、その仕事が自分には合っていないと気付いた生徒がおりました。また、2年時からずっと同じところで実習を重ねることで、さらに仕事の質やスピードを上げ、職場から高く評価された生徒もおりました。このように実習を通して自分の課題点や適性に自ら向き合い解決することで自分で納得のいく進路を決定することができると思います。先輩方は希望する進路の実現に向けて家族や教師とともに悩みました。自分の進路について真剣に考えました。来年度一つ学年が上がり、また社会に一步近づく1・2年生、実習は自分の強みや課題を見つける絶好の機会です。日々の生活や授業を大切に、自らの道を切り拓いてください。



「一期一会」・・・

「一期一会」（いちごいちえ）ということばは、良く耳にする熟語であり座右の銘や好きなことばとしている方も多いのではないのでしょうか。あらためて歴史にその意味を細解くと、江戸時代幕末井伊直弼の茶会にかかわることばです。

茶会での一コマに、同じ人と茶会で同席することがあるとしても、「この茶会は一生にこの日ただ一日だけである」ということから「出会えたことに感謝したい」という意味になるようです。スマホなど電子情報がなくてはならない今の時代にあてはめて再考してみると、毎年生徒たちや同僚との人との出会いを何度重ねても、やはりその時々のお出いは「一期一会」です。卒業した46名との出会い、1、2年生60名との出会いにはじまり、保護者との出会い、多くの教職員との出会いもまた、二度と同じ時にもどることができないのだから、その時々にとりだけの「一期一会の心」で接しえたか、と反省します。毎日顔を合わせる家族や友人、仕事仲間であっても、言葉を交わすその一瞬一瞬は「一期一会」であるともいえますので、初めて会う人たちだけではなく、毎日会う人たちとの時間も心を込めて大切にしたいものです。

川の流れと同じように、その時々瞬間はもどらない。言い換えれば「出会ったときが別れの時」かもしれません。春になり、生徒たちも私たちもこれからまた新入生と出会い、多くの仲間と出会います。きっとこれから会う人たちや取り巻く環境は、「会うべくして出会っている」と考え、一期一会の心でその一瞬一瞬を大事にしていきたいものです。（T・Y）